

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

連休の前にと大和路長谷寺へ 満開の牡丹に雨降り止まず 5月2日 K

おおよそは花の終りの牡丹園に人に聞いて花ジャーマンアイリス 5月6日 O

花びらは漂ひてをり友人の散骨なせり酒田の海へ 5月13日 N

現世に父亡きままに五十年総本山の長谷寺に詣づ 5月17日 K

親越して若竹伸ぶと長源寺月のさとしは報恩を読む 5月20日 O

昼の月おほきく空に貼りつきて見守るごとし散歩の時間 5月26日 N

梅雨近き雲居の月の十三夜あはき朱の色にじませてをり 5月30日 K

通りすがりは動物病院町内会班長さんの札下りさがおるかも 6月4日 O

梅雨入りといふも当地は雨なくて過ごしやすき季節とおもふ 6月12日 N

梅雨に入り高温夏日と梅雨寒と交互に襲はれ老いの身せはし 6月16日 K

樹の上にこわれゆく花泰山木あるとき触れて硬き花びら 6月25日 O

公園の茶店に今年はじめの抹茶あずきのかき氷食ぶ 7月1日 N

気温室温そのつど高低くりかへし体温調節失調症なり 7月5日 K

二つでは多いだろうか願ひする鷲大神社両手合わせて 7月10日 O

三津屋には幟立ちをり幻の「天保そば」を今年は食みぬ 7月12日 N

北限の蔵王のゆずの香に涼む笹かまぼこはクール便なり 7月18日 K

花の名はときには長く短いは漢字名多く今は木むくげ僅か 7月19日 O

雨降らず炎天つづくこの日ごろブルーベリーは濃紺の実を付く 7月25日 N

未曾有なる高温続き持病持つ身に熱中症軽度なれども 7月28日 K

さんさ路の角の地蔵さんさし覗く今日の供花は紫陽花一つ 7月30日 O

パールのわれの車は今日つひに走行距離を七万キロとす 8月3日 N

となり家の百日紅の咲きさかりわが庭の一隅白き花占む 8月15日 K

片あしが痛んでやまぬという人の話を聞きぬ昼の園にて 8月16日 O

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
 布宮 慈子
 河村 郁子

吃逆^{しやつくり}がとまらぬ人^{ひと}に乗りあわせ車内はしばししずかになりぬ

1月24日 O

昼^{ひる}ごはんを母と食べれば静かにて低く聞こえる吃逆^{しやつくり}の音

1月28日 N

しやくりつつ急ぎ止めむと念ずれどおのれ脅かす術なきあはれ

2月2日 K

図書館「本が泣いています」なかに校閲をしている書き込みもある

2月7日 O

「100万人の年賀状展」眺めたり杜の都の文学館に

2月11日 N

エクセルに発送名簿を打ち終へて拙著の受け取り願ひてをりぬ

2月15日 K

なんとなく口さびしさに置く豆に今はいかり豆皮ごとを食む

2月21日 O

ガルバソのカレーといふはやさしくてひよこ豆の顔つくづく眺む

2月26日 N

あざやかな黄の花咲かせ地の中に育ちしピーナツと一粒を噛む

3月1日 K

沼のほとりの花というとも桜まで桜からとすそこが区分で

3月9日 O

札幌ゆ来し従姉妹らと共に食む前菜^への上の桜の花を

3月17日 N

バス停の河津櫻にはやばやと若葉茂りて春の雪受く

3月21日 K

棒杭に並びながらも丈足らぬみつは小鴨春の川なか

3月22日 O

白鳥は隊列なして北へ去り羽州の田んぼ春の陽のなか

3月27日 N

厳冬を超えて一気に盛る花けんめいに咲きこんもりと咲く

3月31日 K

あきらめて犬ひく人にあきらめてひかれゆく犬葉桜下を

4月2日 O

山形は梅満開にちらほらと桜咲きつつ沈丁花かをる

4月7日 N

見上げるし薬^{しよ}の桜に思ひ立ち馳^{しよ}せ参^{まゐ}りたる山桜^{まゐ}笑^あむ

4月8日 K

境内にイチイ二木が被る花枝垂れ桜が花をこぼして

4月11日 O

強烈なシュートを放ちヨルダンのなでしこジャパン中国に勝つ

4月18日 N

スタメンの6番大谷翔平の安打あれどもチームは敗戦

4月21日 K

貼り札は立春大吉歩み出て二箇所でもみたりいずれも店に

4月23日 O

連休が始まつてゐて「ペンタゴン・ペーパーズ」観^{たま}つ記者の魂^{ましひ}

4月29日 N

対詠 ごきげんいかが？

K N O
 小野澤繁雄
 布宮 慈子
 河村 郁子

この日ごろ朝の散歩に出でて会ふ双葉公園の大きダリアよ

11月16日 N

牧野庭園ていゑんの白山茶花のあはひには乙女椿の密やかに咲く

11月17日 K

笑い声には年齢がある隅田川テラス歩いて声降るところ

11月22日 O

少しづつ覆はれてゆく雪の野に白鳥のこゑ降りくるごとし

11月25日 N

厳しかりし長旅終へて白鳥は羽をたためり 吾にし然り

11月30日 K

あるときはほとりに下りてみる水面下沼公園まだ生きている

12月2日 O

東京は曇り空にてスーパーの入口にある焼き芋を買ふ

12月8日 N

駅前駅前の石焼き芋の香が誘ふ安寧芋の一本を買ふ

12月10日 K

さつま芋掘りおる畑にいきあいぬ若きら云うは体験になる

12月11日 O

朝焼けの富士山を見つ東京ゆ帰り来たれば山形の雪

12月12日 N

赤富士を見しとふ友よそは吉兆 孫の生誕祝ひなるらむ

12月14日 K

久々に富士みるこの日気付いては六十九歳になりたるらしも

12月17日 O

月山も葉山もすでに白くしてパズルのやうな今日の緋月

12月21日 N

冬至過ぐる夜空にさやけき半月よ姉の黄泉路を導き給へ

12月26日 K

あつちでもいいんだけどもこっちでいい人がおしえてくれる近道

12月29日 O

2018年

雪道をゆつくり抜けて融雪の歩道を行けば「よなき石」あり

1月4日 N

散策に近道なして笑ひしも老いゆく足に近道嬉し

1月5日 K

壇蜜がしずかに選りし言のよさテレビの人の間に一人

1月8日 O

くり返し思ふことあり年賀状に書かれし言葉そのひとことを

1月14日 N

代筆とふ年賀状のそれぞれに思ひめぐらす書家なれば 猶

1月19日 K

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
 布宮 慈子
 河村 郁子

夜いまだ真夏日の気温のままにして旧七夕のうす雲晴れず	8月29日	K
残党とはいわないながらラジオ体操終りしあとも子らは遊んで	8月31日	O
赤とんぼ里に下りくる九月なりスイカの残り香あるごとき日々	9月4日	N
せはしげに庭ぬちに舞ふ黄の蝶よ心残りは吾にしおなじ	9月6日	K
先々へ追われんがにもハグロトンボ足すすめても足先にいる	9月15日	O
じりじりと台風18号北上す三連休をもともせず	9月18日	N
大型の台風かすめて過ぎし朝氣づかい合うは夜半の強風	9月20日	K
時間帯すぎても秋の風のなかみちの半ばは通学路にて	9月26日	O
西風が吹いてコスモス揺るる日はものみな透きて秋が来てゐる	9月30日	N
秋日なか菩提樹の実のあまた垂れ落つるともなく幽けくゆれる	10月1日	K
晴々と弓もつ者ら遠征か駅のホームに歩みならべて	10月2日	O
山形の国際ドキュメンタリー映画祭はじまり街に外国人増ゆ	10月7日	N
練馬区の「みどりめぐりの会」に入り万葉歌もて牧野庭園へ	10月8日	K
くさはらの一、二区画が野菜畑みどりのいろが少し違つて	10月12日	O
映画祭終れば木々の葉はすでに色づいてゐる山形の街	10月16日	N
桜木の葉に黄の色の交ざる様わが髪に触るる思ひこそすれ	10月20日	K
黄葉にあいたるみちは竿をもてたたいている人下に銀杏	10月22日	O
紅葉する瀧山 <small>ちみぢ</small> ははや夕暮れて三日月浮かぶ色なき月が	10月26日	N
柿の木の青葉のあはひに潜みゐる橙 <small>たう</small> の実今年はたわわに生らさず	10月28日	K
青桐の樹下にあそびしわれなれど甲冑色をみてすぎるのみ	10月31日	O
「神様の食べ物」といふ学名を知りたる夕べ柿の実甘し	11月5日	N
住む人の絶へて久しき庭内 <small>にはぬち</small> に熟れたる柿の一つが落ちぬ	11月8日	K
あら草の手のつけられぬその中を低く囲いてダリア園あり	11月11日	O

対詠 ごきげんいかが？

K N O
河村 郁子
布宮 慈子
小野澤 繁雄

冬の間は枯れたようなに辛抱がいると庭の人鉄線の花

5月11日 O

鉄線が花芽つけしといふ母のよろこびの声つつましきかな

5月21日 N

亡き父の賞でしは鉄線こむらさきいつしら庭に見あたらざなり

5月23日 K

草刈るといふほどの荒草ののび母とこし墓そのままに母

5月25日 O

草刈りてマルチにすれば肥やしとて畑の草を無駄なく使ふ

5月31日 N

外構のリフォームに生れし一隅を坪庭と成し隣人招く

6月2日 K

落ちてゐる花片ひとつもないことに土木事務所は泰山木の花

6月6日 O

いつぽんの泰山木あり白花を山の道より見上ぐはつなつ

6月12日 N

泰山木さがしあぐねて三千歩心に還す花 りくぎえん 六義園

6月17日 K

バスが停まって乗る人がいる流川そこにも何かよろこびがある

6月23日 O

水無月が終はらむとす水田に囲まれてゐる百目鬼温泉 どめき

6月29日 N

庭石の上のくぼみに雫落つ青き葉よりの矮小惑星

7月5日 K

聞いてまでしりたき花名にアガパンサス庭にみるとも多く終盤

7月8日 O

てのひらを蜂に刺されつ実りたるブルーベリーを摘み取らむとして

7月12日 N

真夏日の墓参すませて涼をとる菩提樹の葉かげに青き実あまた

7月14日 K

少年はのびのびとしてかたわらは母か触れつつ待合室に

7月22日 O

合歡の花ほわほ咲きて山越えの道明るめり夏の雲湧く ねむ

7月27日 N

百日紅のたわわに白き花の咲く枝先叩くゲリラの豪雨

8月2日 K

いつの間に百日紅も盛りなれしとどに落ちて踏まれる花片

8月9日 O

若者が真夏の成人式終へてドレス、スーツで通りへ繰り出す

8月14日 N

盛夏らしくない日の続くアンニユイに記録的短時間大雨予報 なつ

8月19日 K

みるときはひとつならずにみる花にリコリスの花盛夏この今日

8月21日 O

暑き日を眠らせるごと三日月と木星ちかづき西に輝く

8月25日 N

対詠 ごきげんいかが？

K N O
 河村 郁子
 布宮 慈子
 小野澤繁雄

山形の家庭菜園きさらぎの雪に覆はれ春を待つなり

2月12日 N

春一番さなかの午餐は横浜港船上なれど航行中止

2月18日 K

砂山のようなる頂き宝登山は風に洗われ岩が出ている

2月19日 O

南より黄の花のメール来てをればじわじわと屋根の雪とかす雨

2月23日 N

沈丁花の花芽ふくらみ調ふもわれの心の備へ未だし

3月8日 K

かけつばなしにしておくCD「ドン・ジョヴァンニ」に騎士長はすぐ殺されてしまう

3月9日 O

震災から六年を過ぐアレクシエービッチ『チェルノブイリの祈り』読みたり

3月13日 N

白木蓮の咲き初むるころ思ひ出づ六年前の新宿流民

3月14日 K

列なつてどこまでのみち制服は競輪学校の生徒ら近く

3月20日 O

忖度といふ字を知りぬ国会の籠池さんの証人喚問

3月23日 N

OEDに「ポスト真実」載るといふ情報の真偽がカオスの時代

3月25日 K

裏通りはさらにもさびしさながらに民家こんにやく工場がある

3月30日 O

どの地にも玉こんにやくがあるものと思ひ育ちぬ祭りの玉こんに

4月5日 N

江戸前の穴子の天ぷら塩ふりてパリッと食ぶ 土地の慣はし

4月8日 K

酢漬けもあるとわが生まれ県渋川に苺品種の「弥生姫」みる

4月11日 O

菜の花が置賜の地に揺れをれば吉里吉里忌なり逝きて七年

4月16日 N

三分一湧水館にそばを食む流水分かつ三角石柱

4月18日 K

堤が桜堤に、公園になりし由来も人の関わり

4月19日 O

武蔵野市桜堤に保育園、小中学校を過ごしたる子ぞ

4月23日 N

よみがへる原風景のさくら桜ちちはは姉と歩みし上野

4月27日 K

平日の牡丹園内藤の下車いすの人多くがやすむ

4月30日 O

二十度を超す陽気なり桜桃のすなはち白き花は満開

5月5日 N

ひとところを占めて群れ咲く蝦根草父の植ゑしは五十年前なる

5月10日 K

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

12月9日 K 汐留の街路樹に残るわづかなるいちやう黄葉光を受ける

12月10日 O 港区に北限とする榧かやありてためらわず実を捨う人あり

12月15日 N 切られゆく上野の森の大き木はヲウヲウといふ声あげるらむ

12月18日 K 黄葉を落とし終えたる大銀杏すべての枝が青き空指す

12月19日 O どんな水も拒まぬ海を「同事」という清見寺門にことしさとしは

12月22日 N 海猫の餌付けやめたる加茂水族館 みなみの空に積乱雲わく

12月25日 K 訪れしつがる富士見湖に白鳥の飛来を告げる歌友ともを嬉しむ

12月27日 O 畑すみの枯れ枯れとする枝先に下つて塊は綿かな白し

12月30日 N 畑には雪うつすらと南天の赤きが映ゆる歳末となる

2017年

1月2日 K はつはるを迎へる庭の華やぎは千両万両おも万年青の朱の実

1月5日 O みちすがら鷲大神社なるに寄り詣でる人らみるついたちの朝

1月9日 N 汚れとも澱おりともつかぬこれの世を覆へる白に重力失ふ

1月12日 K 大統領就任前の礼節を欠きたる言動 信頼できぬ

1月15日 O 夜に出てみしお星さんおの付かぬ星さんという人二人しる

1月20日 N トランプの演説いかになさるるが話題となりて美容院出づ

1月21日 K 大統領就任演説に虚しかり メイクアメリカグレートアゲイン Make America Great Again

1月23日 O (ヘアメカ(で)の殺戮)というトランプに極端な言葉がある極端

2月2日 N 壊し屋か革命家なのか喧かまひし渦の中心はドナルド・トランプ

2月4日 K 独占欲強きがゆゑの富裕層 国を独裁することならじ

2月8日 O みちぞいの家庭菜園に一区画五番本格鶏も飼っている